

日商簿記3級 頻出論点だけで合格ライン講座

第4回 / 全7回

決算整理9大論点・関連論点①

現金過不足・当座借越・貸倒引当金・売上原価(決算整理1～4・関連論点1)

目次

内容	ページ
仕訳→総勘定元帳→決算整理→財務諸表の流れ	3
決算整理1 現金過不足の整理	6
決算整理2 当座借越	9
決算整理3 貸倒引当金の設定	12
関連論点1 売掛金・受取手形の貸倒処理	15
決算整理4 売上原価の算定	18

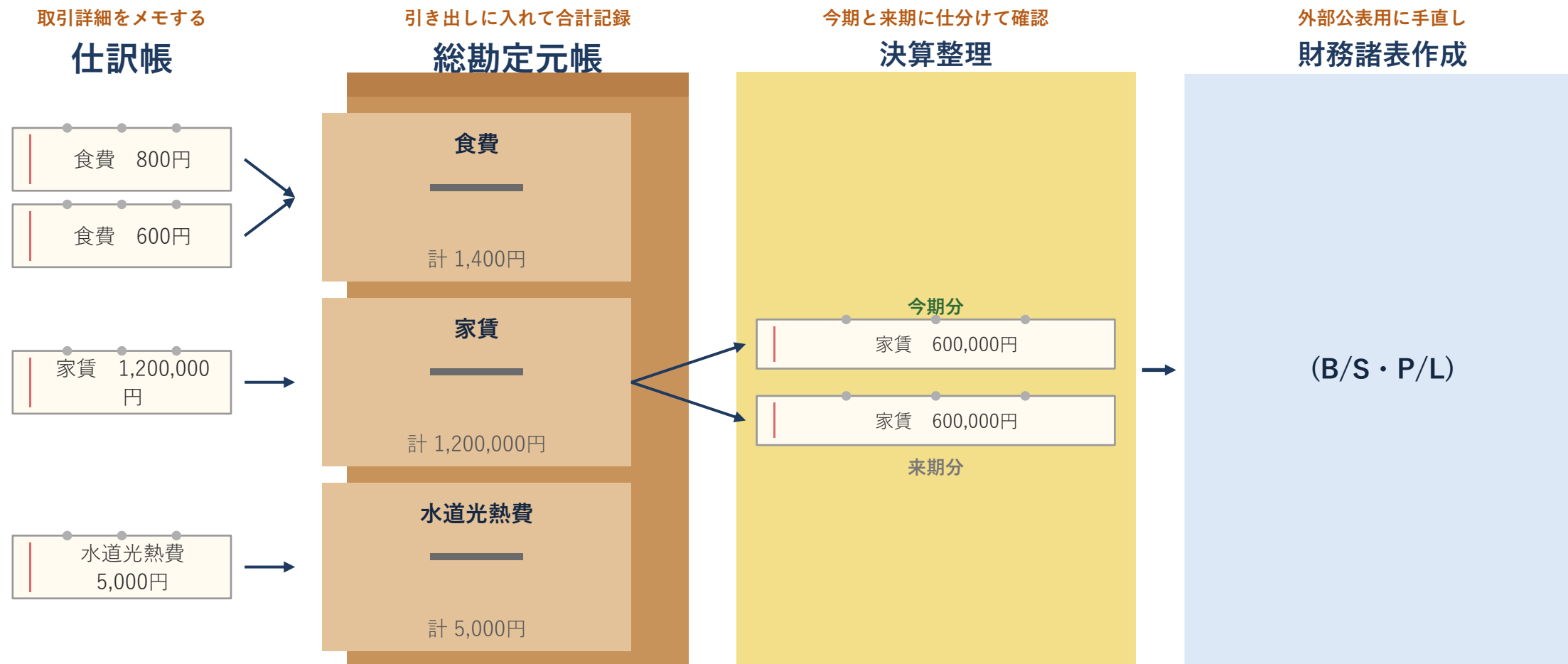
簿記一巡の流れ(今回の位置づけ)

今回は④決算整理を扱う。第2回で学んだ仕訳を、決算日に「実態に合わせて直す」応用編

簿記の作業	日常生活でたとえると
① 取引が発生する	スーパーで買い物をする
② 仕訳をする(仕訳帳)	メモ帳に日々の出費(日付、買ったもの、金額)を記録する → 取引詳細の記録
③ 総勘定元帳に転記する	出費のメモを、項目(食費・交通費など)ごとに引き出しに入れて集計する → 出費項目ごとの合計金額の記録
④ 決算整理をする	年末に前払い分などを見直して帳尻を合わせる
⑤ 財務諸表(B/S・P/L)を作る	1年間の収支表と財産の一覧表を完成させる



仕訳→総勘定元帳→決算整理→財務諸表の流れ



決算整理とは

決算整理：決算日に帳簿を見直して、今年分と来年以降分の計上を整理する作業

- 例えば、3月が決算日の会社で、6月に向こう1年分の家賃をまとめて払ったとする

- そのまま記帳すると、来期の家賃まで今期の費用になってしまう

→ 今年の家賃は今年に、来年分の家賃は来年に計上できるようにする作業が「決算整理」

※期中の処理漏れが決算時に見つかった場合も、決算整理として処理する

例:6月に向こう1年分の家賃を前払い

3/31 決算日

支払時:家賃(費用)として12か月分を計上

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----

当期に使用した分(10か月)

当期未使用(2か月)



決算整理:未使用2か月分を費用から除く

今回扱う決算整理9大論点・関連論点①

決算整理＝決算日に行う仕訳、関連論点＝関連が深く一緒に扱う仕訳。決算整理5～9・関連論点2は次回で扱います

No	内容
決算整理1	現金過不足の整理
決算整理2	当座借越
決算整理3	貸倒引当金の設定
関連論点1	売掛金・受取手形の貸倒処理
決算整理4	売上原価の算定

決算整理1 現金過不足の整理

現金過不足：帳簿上の現金残高と実際の残高が合わないときに使う一時的な科目

- － 現金過不足は一時的な科目なので、決算では必ずゼロにして雑損・雑益を計上する

雑損・雑益：他の科目に当てはまらない、原因不明の小さな差額を片づけるための科目

- － 借方に残っていた(現金が足りなかった) → 雑損(費用)に振り替える **雑損/現金過不足**
- － 貸方に残っていた(現金が余っていた) → 雑益(収益)に振り替える **現金過不足/雑益**

・ 仕訳のコツ：残高がある側と反対側に現金過不足を書いて、ゼロにする

- － そのとき出てくる相手科目が借方なら雑損(費用の発生=借方)、貸方なら雑益(収益の発生=貸方)

【演習（決算）1】現金過不足の整理

動画を一時停止して、自分で解いてみましょう

- ①決算にあたり、現金過不足勘定の借方残高5,000円の原因が最後まで判明しなかった
 - ②決算にあたり、現金過不足勘定の貸方残高3,000円の原因が最後まで判明しなかった
-
-
-

【演習（決算）1 解答】現金過不足の整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
①雑損	5,000	現金過不足	5,000
②現金過不足	3,000	雑益	3,000

- ・ ①現金過不足は借方に5,000円残っている → 反対側の貸方に切って、残高をゼロにする
 - － 相手科目は借方に出てくる → 借方に出てきたので雑損(費用の発生=借方)を計上する
- ・ ②現金過不足は貸方に3,000円残っている → 反対側の借方に切って、残高をゼロにする
 - － 相手科目は貸方に出てくる → 貸方に出てきたので雑益(収益の発生=貸方)を計上する

決算整理2 当座借越

当座借越：当座預金残高を超えて引き出した場合に生じる銀行への支払義務

- ・ 当座預金はふだん借方残高(資産)だが、マイナスになると貸方に残高が生じる

－ 例：売掛金1,000円を回収し、買掛金2,000円を支払った

仕訳：当座預金1,000／売掛金1,000 買掛金2,000／当座預金2,000

－ → 結果、総勘定元帳の残高はマイナス1,000円になる

- ・ 決算時にマイナスのままなら、当座預金(資産)をゼロにして当座借越(負債)へ振り替える

仕訳：当座預金1,000／当座借越1,000

－ → 当座預金がマイナス1,000、残高を0にするため、当座預金を1,000増加させる。

その分銀行への支払義務が生じるため、当座借越という負債を計上する

【演習（決算）2】当座借越

動画を一時停止して、自分で解いてみましょう

- ①決算にあたり、当座預金勘定が貸方残高3,000円(借越)になっていることが判明したため、当座借越勘定へ振り替える
-
-

【演習（決算）2 解答】当座借越

借方科目	金額	貸方科目	金額
①当座預金	3,000	当座借越	3,000

- ・ ①当座預金のマイナス3,000円をゼロに戻し、同額を当座借越(負債)として計上する

決算整理3 貸倒引当金の設定

貸倒引当金：売掛金・受取手形の回収不能に備える資産のマイナス科目（貸方）

－ 売掛金・受取手形は、取引先の倒産などが理由で必ず回収できるとは限らない

－ 回収不能部分は売掛金・受取手形の価値が減少したと考え、

これらの科目からマイナスするための特別な科目である、貸倒引当金を計上する

参考 BS上の表示

売掛金 5,000

貸倒引当金 △4,000

貸倒引当金繰入額：貸倒引当金を設定(増額)するときに計上する費用の科目

－ 価値が減少する原因は当期にあるため、当期の費用として計上する

・ **処理方法：見積額と貸倒引当金の残高を比べ、差額を追加計上する（差額補充法）**

－ 例:今回の見積額が4,000円で、すでに1,000円ある → 追加するのは差額の3,000円だけ

設定時の仕訳：貸倒引当金繰入3,000/貸倒引当金3,000

【演習（決算）3】貸倒引当金の設定

動画を一時停止して、自分で解いてみましょう

①売掛金の期末残高200,000円に対して2%の貸倒れを見積もる

差額補充法により、貸倒引当金を設定する(設定前の残高は1,000円)

【演習（決算）3 解答】貸倒引当金の設定

借方科目	金額	貸方科目	金額
①貸倒引当金繰入	3,000	貸倒引当金	3,000

- ・ ①見積額=200,000×2%=4,000。すでに1,000円あるので、差額の3,000円だけを追加計上する

関連論点1 売掛金・受取手形の貸倒処理

※決算整理仕訳ではないが、貸倒引当金の設定の次に扱うと理解しやすいためここで扱う

貸倒れ：得意先の倒産や資金繰り悪化などにより、売掛金が実際に回収できなくなった状態



・処理方法

- － ①貸倒金額＜引当額：すでに設定してある貸倒引当金の範囲内で取り崩す

例:引当金残高3,000円のときに2,000円が貸し倒れた → 引当金2,000円を取り崩す

貸倒引当金2,000／売掛金2,000

- － ②貸倒金額＞引当額：貸倒引当金の残高で不足する場合は、超過分を貸倒損失(費用)として処理する

例:引当金残高3,000円のときに5,000円が貸し倒れた → 引当金3,000円を取り崩し、残り2,000円は貸倒損失

貸倒引当金3,000／売掛金5,000

貸倒損失2,000

- － ③引当金0：貸倒引当金を設定されていない場合は、全額を貸倒損失として処理する

例:貸倒引当金の設定がない状態で、売掛金4,000円が貸し倒れた → 全額を貸倒損失として処理する

貸倒損失4,000／売掛金4,000

※受取手形が貸し倒れた場合は勘定科目を売掛金→受取手形に読み替えるだけ

【演習（関連）1】売掛金・受取手形の貸倒処理

動画を一時停止して、自分で解いてみましょう

- ①得意先が倒産し、売掛金5,000円が回収不能となった(貸倒引当金の残高は3,000円)
 - ②得意先が倒産し、売掛金2,000円が回収不能となった(貸倒引当金の残高は3,000円)
 - ③得意先が倒産し、売掛金4,000円が回収不能となった(貸倒引当金は設定されていない)
-
-
-
-

【演習（関連）1 解答】 売掛金・受取手形の貸倒処理

借方科目	金額	貸方科目	金額
①貸倒引当金	3,000	売掛金	5,000
貸倒損失	2,000		
②貸倒引当金	2,000	売掛金	2,000
③貸倒損失	4,000	売掛金	4,000

- ・ ①引当金残高3,000円<貸倒額5,000円 → 引当金3,000円を全額取り崩し、不足分2,000円は貸倒損失(費用)にする
- ・ ②引当金残高3,000円 $\geq$ 貸倒額2,000円 → 引当金の範囲内でおさまるので、貸倒損失は発生しない
- ・ ③貸倒引当金が設定されていないため、全額を貸倒損失として処理する

決算整理4 売上原価の算定

売上原価：当期に売れた商品の仕入れ代

繰越商品：売れ残って次期に繰り越す商品(期末在庫)を表す資産科目

- ・ 売上原価＝期首在庫＋当期の仕入高－期末在庫、という式で計算する
- ・ この式の計算を仕入勘定の中で行う(通称「しーくり・くりしー」)
 - － 例：期首在庫8,000円、当期仕入42,000円、期末在庫12,000円

① 期首在庫＋当期の仕入高＝販売できる商品の合計

期首在庫 8,000	当期仕入高 42,000
---------------	-----------------

しーくり

仕入8,000/繰越商品8,000
→ 期首在庫を仕入に足す

売れたものは在庫からなくなっているので…

② 販売できる商品の合計－期末在庫＝販売した商品の合計(売上原価)

売上原価 38,000	期末在庫 12,000
----------------	----------------

くりしー

繰越商品12,000/仕入12,000
→ 期末在庫を仕入から引く

【演習（決算）4】売上原価の算定

動画を一時停止して、自分で解いてみましょう

①決算にあたり、売上原価を仕入勘定で算定する

期首棚卸高10,000円、当期仕入高45,000円、期末棚卸高15,000円である

【演習（決算）4 解答】売上原価の算定

借方科目	金額	貸方科目	金額
①仕入	10,000	繰越商品	10,000
繰越商品	15,000	仕入	15,000

- ・ 前期末の在庫(期首棚卸高)を繰越商品から仕入に戻す
- ・ 今期末に売れ残った在庫(期末棚卸高)を仕入から抜いて繰越商品(資産)にする

① 期首在庫 + 当期の仕入高 = 販売できる商品の合計

期首在庫 10,000	当期仕入高 45,000
----------------	-----------------

しーくり

仕入10,000/繰越商品10,000
→ 期首在庫を仕入に足す

売れたものは在庫からなくなっているので…

② 販売できる商品の合計 - 期末在庫 = 販売した商品の合計(売上原価)

売上原価 40,000	期末在庫 15,000
----------------	----------------

くりしー

繰越商品15,000/仕入15,000
→ 期末在庫を仕入から引く

第4回のまとめ

- ・ 今回、決算整理9大論点のうち決算整理1～4と、関連論点1を学習した
 - － 決算整理1 現金過不足の整理
 - － 決算整理2 当座借越
 - － 決算整理3 貸倒引当金の設定
 - － 関連論点1 売掛金・受取手形の貸倒処理
 - － 決算整理4 売上原価の算定

次回・第5回は「決算整理9大論点・関連論点②」。固定資産・貯蔵品・経過勘定・消費税・法人税等を扱います。